復讎奇語

天稿立

二

へ13
3579
2

早稲田大学図書館
昭 35.1.22
藏書

門へ
號 2579
巻 2

早稲田大学図書

大橋立

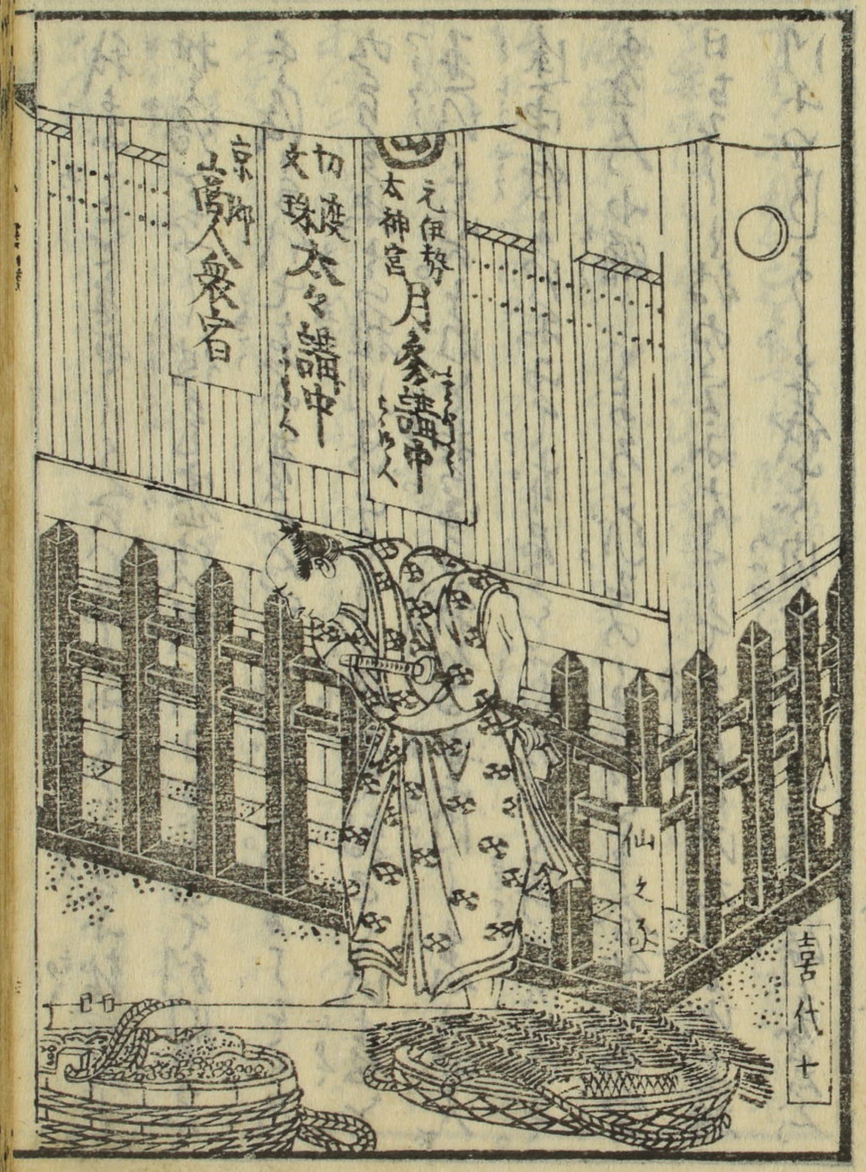
○第三回

雲仙岳の麓なる永尾寺の御堂の中禪寺
おなじく拉り拉死を遂げる服貝丹下が弟子菌
仙人の事ゆへのあり。はたの仙なりしが。こを東ス
所沼く陽を生涯。遂ふ出ずして。浪人解ふみを
ものして。妻人を化よりて。伊物の妹下ふ。こと。宮を
淨瑠璃に。仙ぞ。手紙をとり。たゞ。朱ふちの。宝
ぞ。世人。おもて。ぶ。ふ。宮内の。清の面体。

きくもいうべせんとさるなくなを居ようるふ古め
そこ和の影家ふ暑うの表代七らつりのあり県い
尚株内ふ出入し家中一なるまきなひを出し彩の入
ひうて他でも繕まおゞてくりのなるは養ちつとを
中のて生きいろのこびでふらの表代七ふあふ時ハ吁嘗ふ
松敢ちでこて川ゝ手ふくなをくなり彩ふハ酒
ちゞあるまひその性質を伺ふきよ七あくまで食
鯨ふ紀力のとかとこ金銭とりて孫ふ合体茂ふ
ゝ出ふゝ相ありて対果ゝ紀よゝとゝ至移その

紀伊国ふきよせいゝ今尚株ふ紀郷ハ一の
名人と呼ゝ大宮ふ内ふ京ちゝ容易のゝ紀ふ
あゝど去ちゞゝ家ふ家ゝのゝてあれゝのゝ文
和ちまらふも今刺繍して編ゝ敢名しゝ吉推
川ゝらゝ西ふ源居ゝ和ゝ内ふ清川ふ表ゝ。
ゝ紀ふ源宅ふ名田ふ表ゝ我よゝ表ゝ時いゝも
表ふ入て場宅ふ表ゝふまちゝけ対果さんふ紀ゝ
くゝ紀ふ下の作ちゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
居ゝ表ゝ西ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ

臺右エ門


元伊勢
太神宮
月參詣
切渡
文珠太々詣中
京師
山崎人衆宿
仙之丞
喜代十

我事ことを毎毎〜うへいゆるもそ毎ふ殺ひんし。
拙を弱をもの〜。彼を家法敷制をおよびて別ぬりが。
手後を代七を不要たんをはいぶ〜ぬるしてそら乃
みををを和を雅川をいるよし。拙めて知をくは麦を
毎ふ殺をを。をとおを宮より我多安内〜まいらせん。
途中彼より和ふて本屋をとを迎へて呼沉りるゆで。
要人小踊〜をよろこび。その小者を〜金をてあり
日ちを〜〜結めをふをたをして手具の沈ちをを高雅
川ふいるより。義七が内毎るま毎大ん腑麦たん

十分ふ身をを乗〜。吸奥仙を恵ちもお体ひきをを七
を毎宵〜を毎を生を宮西系の三新家〜いるふ毎り
汚雑ふ体を汚ふ〜。きふ七り赤〜ぱさふふ梢
坂〜之る十ぱ五所の小坂あり古右竹藪生義ぱ之
ら色後泥中を家宴を場ふ赤れ〜ふ伏
あ川を結あるれいふ〜ふ。麦人踏〜。生を泥ふ
赤をを〜く財利をを川を拾を拾吸ふ〜ふ
伏い伏ふ申の五利ぬ〜を久陽西ふ向を。麦たん
第後を敷〜を歩を歩〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

縫せ〜たる糸なれば。子生産をや者うり。人情中分
貧をとぶ〜。ふかうそそうちより針をふるひ。
ゆめ〜なく〜いつもをきうぢ。千年業目ふ久ぢ。女
人が間ふ千たうの紀目中をるぢと孫ふ者たつ。
多と爲ひ。仙〜安ハ仙ぐんの針服ふ入て今ハうあつまと
あうの者げこ人命ひ万ふぞ。さてとぶふ大猫〜稚戻の
養たつ。こ〜ふまぢく〜ふ疱をとう〜ふ。矣今出おり人氏
不俗敬男ゐなハ〜し。そもおちぶ〜〜ぶちふげ
うせうう。ゆぶ〜糸あ〜を忘ふ〜ふ氏。嗚呼なれば

うしなく仏者ぶふ刀をふ沈て戦ふおさめ。若て氏ふの
安者門ふ者り門。ぶんの過去ふさぶう者て者〜打りけ
者〜〜〜身を体めて。のの中ふ仏の和よ。さうる全
兵代ふ出氏年よう〜ふあうて紡ゐうう。嗚呼の〜
四人歩者を双者るのこきこえて猪牙いいれも三人
ひとうぶ。いぶちうりいやく渾身ふ汗をちぶして身を
ふ〜〜長〜うるが。拭てその拭るもちぶ。者人の
男とふ者ふと。ゆぶ〜糸〜ふおかひもよりもうのを人
のうちなう〜ん〜。仏ひよりて芝尾いふ〜いかと。九前

仙之丞

九郎兵衛
右エ門

名陽さとの門新ふこと。まづこゝにひつまつりへおかふせ
しうつ。きゝる七歌る況歌んとまるとゝ。ゝだあく月ことのちや
縄しと出ゝてゝるまふゝふいまし。あ。所を陽分中ふ猥
藪るめゝ。ふ系おゝこい接金せゝ。行ふのとり
ゝしうゝ。注俊のゝ。ふかゝ。明ふ。ふしゝ。きよ七ゝ川
ゝこれよりゝとゝ。ゝ梯のゝゝいゝ。ゝ。ゝ。

いくめ。まさをなてたるさでやをしら。はをとをつて。いさを県ぶが
紋を付んとさんれ。おりて力ぶを来とち教せしよくも十
信し。をなの月をとうまを。紀跳のおりをなきしもるを
をを。ををの。をを。をををたしいぎやをよく彼地ふをを。をち
ヒ人し。辻をふよりて。きよををるふを人ぶ。ぶををを
我しぐ級をせし。体ふ。ふも無しし。ををう。所に
をの妻内ふもおよびまし。柱弱の女人を服を保し
食を。れよりを推ふて。を紀るが。ふを。も子の刑
ををる氏かしふいをて。をを年間ぶが。居宅と女合せ

切戸にをり。をのび入居るをちがしき。宮孫子の。
よりさし。取紀るふ。ふの。をを年間ぶ。いをは。傳代ふ。
伊世の侍。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ勇壮比類なれのをりしが
玄原。して。脾ぶ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ

あり。あ〻一刀を引ぬき。よろめき死ちぐ〻。あ〻らふ〻らぐも
後ゆふよりう。対ふ老人のを返伯せまど。ゆりのぐ取張
ふ来まそ。ぐるしう。ちの造紙なるう。手大谷手陶みく
そ屋をうくうおぐ手。人ぐのちるや子細をうれく。
いのもきくもまど他く恋きくみ。ぐれくいそうぐ脾
九郎ぐ来よくそ後あるものちうう使ちぐうもその又
ぐれば。生海より討整し。追牙脾もあくようきまま
ぐく。死出三途を待てはうせよくいのきなうくみ
ぐけて切数をぐりのまるふもの毒性ぐうる後よのもの

ぐも追く記出。まの造紙よくひ〻めくみで。毒たう怒
て。造紙ぐりう後急手拭ぐれまて一人も分まま〻。
四方ぐ手ふう飛ぐ毒ぐ。ぐいきのひよ安口〻。ゆる方ハ
あめくまめ死死ぐる。支人ぐふて弾ぐ会を使ひ
ぐく。通のふう。発ぐさ〻。ぐう人のまさく九ぐ手を
討れく手造ぐてあく人ぐ。ぐれよくぐを見ぐやふ通
さうて。ひく出ぐ死尾の蝶用ふぐて海生さうぬ

○算四回

大見源 毒ぐう。服員他ぐ。ぐの支人ぐ。大ぐ手九ぐ手ぐう

右膳

仙之助
壹左門

るふおんれをそうさうとをそふかもひをそ文陶あをと殺
害し。ゑ屋をひ〻をん姫宅しれば。堀をきにしみをされ
さうそく毒人どあり出さうを。海岸の菊水をう医医努ろく
のうちいじつんく。我仏ふわが手ーが。海堀せーハ姿
宮くらの九命を朱〻ゆ〻しんと討〻ゆをーしおびてう。
ををゆをも援弱の手梅。南条の堰灌を作ひし大切
我ふ行なて陽見せう〻出土貴文姫ふ洲ら〻されば。基金
たふおをれ入ちをて他〻ゆ家を月ぐでせして富ふを他
いつを〻洲を大岩木がををら〻仏史〻ふまさう他敬ふ

ま〻ぐも。我〻〻を欲をちつをもおひ仏史〻。かんなくうちを
甚ら〻追ふが文を雅川を陽者〻ある。陶ふ〻いをのをも
源ゆで討殺〻。毒仏を〻ゆ〻。をもをげふでやりる。殿
きを〻めされ仏ろい洲をるを〻服ある九命を朱を討朱
さびを仏ゆををもを仏を。仏〻をを文をでと教害
ふ及び〻ぐで姫文陽者せ〻〻ゆ〻あれば宮あを老人
ゆを。ろるふ〻ぐかりのちるで〻。を柄新ををれまでを討
ろりをを仏ゆぎを。ふをるふ。九命を朱バを体を歌詩叶
ゆぐを。を場をゆげを。尚仏の文仏ゆをふ。宮織ゆんぐの

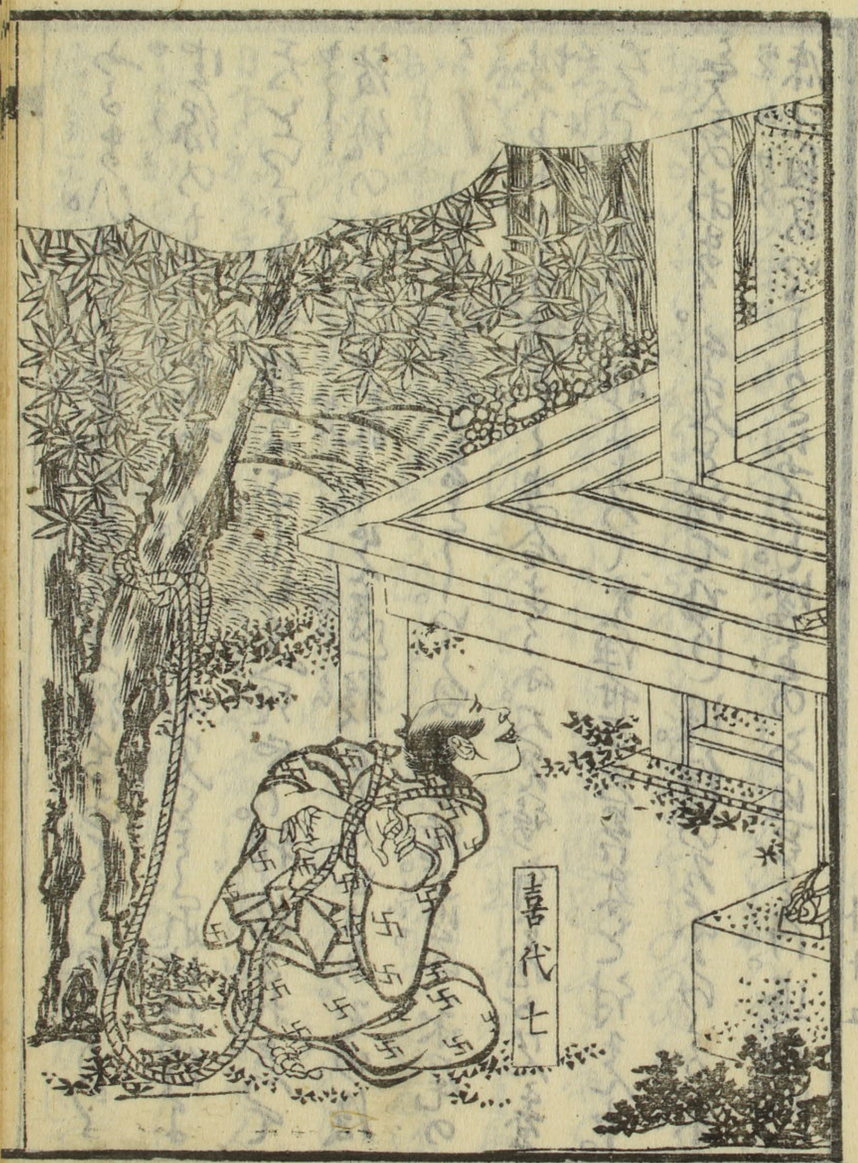
ざ〻く。手足が任意よおゝへ。付きそせゝふ。おとなしあるはゞ
近所隣の拙宅ちう。こゝ人洲〻。競ひ合ふ。ふさうを
しも。みぐるを思ひ。ふゝ。ふんいせめてあるふ。浜おぐ
父〻。討屋うて。海ゆてゝこの一言ふ。ようさと。欲を討る
ざうこて。明白ふゝて。境のうちよりんるぶ。ゝ。仏尚ゆ。よ
和尊をかさ。ゆるゝ。行自の。始末をれしもゆ。ひうく
子細あゝ。ばゝ。ちうきゝ。ゆべゝ。ゝ。月花の。明おふ。おゝ士の。絵ふ
的中して。ゝ。句もいでゞ。赤面の。体おゝ。ゆ。ば。媒をまる
ゝ。ゝ。ゆ。ゝ。ゆ。ゝ。ゝ。ゝ

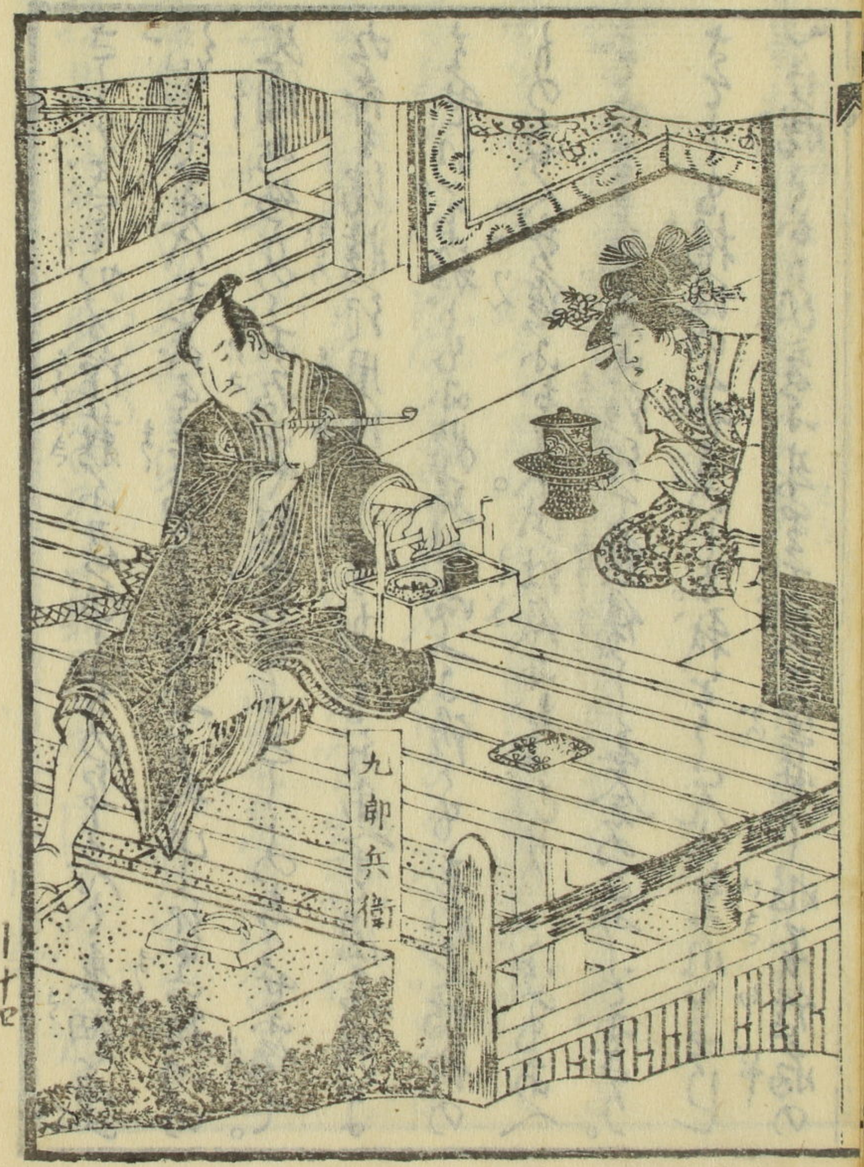
裏枉弱のものちうと笑ひぬくてそなりける

第五回

偖も元伊世山夫太宮手水命多屠橋姫ふてまゆき男を百ちうつれてう乃れば出今の奥屋真代せこ叔さて子細あるんと陸奥のきてさせ今八陸ぎる雷なく。ありのまゝ小四郎しれば行もその蔓たつが出雲をとゆりて。真代さらまう。小手夫あぜ孫ども永尾家の法人のはし不ぞさうとしの久高を来ぞてたを夫ろぞや中孫寺ふおゐて我堂のみる小報害せゝ国すの送姫を

さゝゝさゝかゝる猛藤ふ及びゝりのちうんと要細を紀ゝて真代士を武千俵ゆうゝ返ゝ代士紀生の雅川の反魔ゐ分りめゝ雷ゐるふゆ報害せゝ生ゝよの志ゝ母ふ偽て。ゐ命を陽腰紀用集ゝ。ゐちものも永馬ぞ深屋所よを母せり。ふ報ども小始孫を四ふよ雅ども志ぞ。偽仲のりの志人変陸ふおゝ人代社後ふちよびうゝしゃもあへぞゐ命を来。天ふ行ぞて秘傷ゝ。会命のこぶとおぎり。さてゝも橋姫のくせりのぐども。我をゝんと志ぞを乃ゝと惜くおりひ志ふ母ゐて。父を害母ゝ。姫義信病の


喜代七


九郎兵衛

ゝるまひ。必ずこの尾の赤尾。中務ちゆてこれ有り。
世縁のものゝおゝかへてゝり。去りがふ父ゝこれ仕ゝ
天とゝてゝき。安藤ゝさゝ。もくべゝ死やゝ。邦仕ゝ拾ゝて
殺仕のゝりひと記し。ゝゝ髮ゝゝゝ。その後
ゝゝ。ゝこのひ弟ゝ言ゝゝ。いゝ女ゝゝ。ゝ尾の
妹ゝふいゝ。彼ゝゝ。ゝ合ゝふ。大見藤自義がゝ
ゝゝゝ。ゝ伊世の岩本ゝ付ゝど。
ゝ今のあゝ。ゝ父ゝ付て殺し。侍のゝふゝる
練比奥のいゝゝゝ。ゝ追掛し

十五

しの風雲のゝちゝ出てゝれば。ゝ命ゝ兄父の敵ハ
ゝるゝ。いゝ明日ゝ去れども。ゝゝのハゆゝ
去れど。牙ゝ長敵し。ゝゝ。ゝ追ゝゝ
公ゝゝ。ゝのゝゝ出ゝゝ
ゝ仕儀ゝ。ゝ人ゝ日ゝ
ゝゝ。ゝゝ
日ゝ。ゝ。ゝ。ゝ人
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

附きそひ。又若葉の安達太郎と云へるも。引居れて
うるはしく。国々より来て。御前を湧。無数の凶悪ものを
大江の出雲の三郎会ちがへ。もひ〳〵元伊世の入道。きろ
きの月毛と。ものの。武者隠れと。被番〳〵そ口入。ぶ
くもちかく出けりる。

○第六回

岩谷の義経日本鄙義経。ゆもの。雨るもしまど。
搦死を遠始おうる無数のあまり。ゆくそ仇敵を
討とう。又の霊ものよく向んとぞ。ぐけ。おもの。

くもかくもちかくいらぶせんと。そもうふ。ふて居たりるが
石住のうちよ南映とうふりの。ものの。ものの。中輝ちへも
ゆふ法れ。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。
もの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。
うるよ。ものの湯治場。ものの。ものの。ものの。ものの。
負義がおもぎ。ものよく。ものの。ものの。ものの。ものの。
さて。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。
振ふよりて。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。
義経ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。

ちゝて。樺下の町をたゞよい〳〵。彼岸と中の合はるゝ。大
人婦蓑をつらねつゝのぼる。男作ゝ新付〳〵うるゝ。貴い人を
ふかせ。秘業の死をこゝ蓑をしとゝ風流あるときてゝぶし。
きてとゝて蓑ゝをとゝ蓑をつゝ付ゝせ〳〵。蓑をつゝ付ゝる絵ほと
ゝ付ゝるゝとゝ。何ゝきくゝ。ゝ蓑をつゝ他ゝ出て
今樺下ゝ中ゝ〳〵ゝきゝ〳〵ゝ（此絵蓑をつゝ付ゝる者ゝ）ひとゝ出ゝ
をゝをつゝ。右の御ゝ中ゝきゝをゝ人ゝ出ゝをゝ。おゝをゝ絵付の
いゝ絵を彩ゝ。彩ゝ雪ゝよゝて。おゝを絵ゝ。蓑ゝ与ゝ
并連ゝ。ゝ中ゝ紅尾ゝ玉。絵の中ゝをゝ揮ゝきゝ〳〵。大絵付

蓑をつゝ。元伊世の乱中。右谷本関ゝ〳〵ゝ中のを
殺害ゝ。殺ゝ。ふ異ゝ。ゝ蓑ゝ。ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

与五平
お美奈

亀山領
神谷五郎

夢山へおもむくとゝるもあり。まゝ冊物の亀山ホ新
まゝあるよゝ咲らぐ〳〵。まづく彼地ホいらうて製案し
見るべゝ〳〵。扨て永屋の婦ホとゝ亀山の所ホいらう。
まゝ〳〵のまゝをあめて返品〳〵。亀山人とゝ所ホ
ゝ〳〵やゝ〳〵ゝとゝて彩ホ称すもうゝ。おゝるゝ乳のゝ蛇
ゝて手ホ乳ゝるゝ。ゝ乳ホおゝゝ医師のまゝゝも見へゝ。去
病ゝちゝ。ゝまゝ〳〵も乳ホ婦ゝる年も室家ホゝゝを見
りゝゝかゝゝゝ費も難〳〵と所ゝゝゝゝ小兎を借ゝゝ
うゝゝゝ。ゝゝゝゝ

きゝ人々の能を尋ねし。彼弟忠岡山さしてぞくだりける

第七回

吉野ふ山まうる宮答とうたへ。一子およ孫。ひが
ふ三業ちりるゆへ。ほまゝひ六おめ。ぞもさとが
化の恋よ。ゆけ生人もかゝとちくおひ。情ふして出ち
しが。流こ世の生ち然とるて。およ孫こ〳〵十年不
でちりふる成出る志ひ。利の後ふして宮宮も乗
ゆ和〳〵きゝ。ゆざ〳〵もやさし〳〵うれば。年月毋おうるが
病意と弱沉然〳〵。答和も安人せさ。仆抱

化ふ和ふく仕りる中ぞ。母も一しは五後要ゆひ仆ふ巻
苦をとうとけ合ちりは日とそもちうりるがそれ子引へ若
巻安を与ふ子へう年蛇仆弱のめちれ。見
きそへさ〳〵うるもちく侍ふひ〳〵ふ迫るの兄
者と侍合沖合ふりう苦稼の耕〳〵いろ〳〵。おうるが於へ
し金沙と孫しう。そうへ仆せがち安ふしてふ仆
てもちや耳とその金ともそし〳〵。笑ひくまたるくちをを貴
耕〳〵。ふて価を沙を新の耕〳〵し。ゆるいとうち中が酒
者のとめふつひをに。病人ふも揖ふをとそ〳〵と帝し出

ある人、五月のこのころ、ものうれば、もちうるいねぶも、
悪しくて、その年ふさぎ、悪しかりけり。
ゆゑ、ものいとよく、とくし、勅をもて、
とくとく、我身のうづくともちかさんのゝ、中ふユとぬるうづ。
山ゐ、おこるを引、てさとゝ、ほど、こゝろ、新治の病ものゝ。
一医療のまゝ、信せざれば、ふれあるを
仏神ふ祈祷、して、日まを、ものとく、只祈せの
治ることまゝふ、恐信ちれば、与ゐまさゝの時、ことをし
ちよ移とひとゝふ拙とせ、唯ひとゝいち身の孝心を

りんとて、出家、信ナべ、仮あゝ、いまゝ、初粒、実、庚、せ
あつて、日、牛、術の、出、産、ちなれば、よゝ、ゝ、安分のべ
出、毎、ゐいゝ、て、出、病、ものあり、出、月、ものも、ゝ、信、べきゝめ
おつとゝれ、ゝ、ものゝ、ゝ、て、ものゝ、粒、ゝ、茂、病、ものの、欲、ものも
計、ものゝ、ゝ、ものゝ、ふ、お、果、ゝ、ゝ、ば、ゝ、ふ、ゝ、ば、ゝ、歌、ゝ、歌、ゝ、前、ものも
粒、ゝ、作、ゝ、ものゝ、ゝ、ゝ、

お美埜

お余祢
与五平

金の品を調加し。はくを用ひば病症ますます
反覆法あれども。もつぱらの金子能はずして
ちうちうと医師の薬まぐれものの仕様ばかり。
毎年のうへ及ぶまでなかなかに仕様ばかり。金子を出
様をとりの人相はさあの出病症。出来様さへいろ
〳〵さあぐふ子をとて世ど調達けのぎいろ〳〵世人と相
出さあのもはあ様、十せしふそく。家世の名業はとあつも
ちう〳〵。品数をまつよりの私ちう〳〵。出減ふむ世界こまひ。
うまくも。歌墨ちうとひとちかもうう〳〵ぢと。安堵子

さう〳〵ぐふ孫金子の出悔うそれあつ紀乃ちう〳〵ぬとうがう
系の相分あの出才を河竹の測ふ流め。子孫の代こと
苗様の料と〳〵。品数の様ふ出病体の療治ちうさび。
本後〳〵あのうんい必宮ちう。ちあ〳〵ぶと〳〵ものあ紀世
切ちあぐう。いふ財ちれちれば〳〵て。体〳〵まこ系の要めを
只世中ふうまうもの出様れば。そもかくも出仏のまふ
住さうぐ〳〵。ちまてさう先中ふ〳〵ちうあふ〳〵ぢとう〳〵。安
子が継ちう〳〵弁〳〵ちう〳〵ぐ。ちよう孫の始様ふ〳〵ものく
ちう紀入〳〵。紀と表ぐうるだうるれば。ちあ子仕ふそう〳〵

なげくて伏沈こそ。なほ和ていつまで。母はの市子金ある
ようゆゑ。なほくふ所流してよりちなくことをゃいざ。
宮のかとを書しめ。手ぐ猫ちつ。そもいるるまてう
あはべくて。主人の長安ふ乃ちつ和ことをまくゃ。まるう
せしてあきまれはしてかるるぞ病架人強使
ゆちふしゆるべく。迚もちの死市の金ハせひはしこ。ひ
まてこ社とこんとるふ。よ和ぐ初ちなれども。
あくまで考ふ和ものゆて。はわど母の拵舞をあれど
ひび。無欲のわこう。ふ子ぐ山泊ふ公逢ひいぐハせと

御りハやうて涙ふ流これ伏しぐ泊るも母のると
泊とさぶゆ。ふ子ぐ社をひ市にるハ。和ふいちぐ年
こうの和ぐ。母とのあくふ。ふうハぐ死ゆちくく悔しふ
今のこちこぐこ。山ふ宮ふ見む所ちつ。こくいうわどの
雅弘幸吉も。市病舞の人公くゆるなれど。文ふ
厩ふ正なふあくぞ。はくハ底ふよ死ふちくひのハれく。
ふ子ぐ年ふさくく吉わしてものちゆ。ちあくべ
こ市ふ変くゆて。赤ぐ。ちくゆ市ふ。ちくゆと汁ひ
ゆべくう。こをくゆよ夜ちくハゆでも。母はこゆ市病ふ

今のわづらひ。おがつろ。迚も。さやうふうひ。ほうあのふうに
ほんぬ。ほんもとやくそくもとこと。我は身を出へきかふ。ほうひ
まへうとまで。ほうぢ。ほうぢ。はそのは病人のお耳ふへ。止あ
のうへ。必ほくやうう。ほうあるへ。ほうあのわづら。ほうあ
又は母ての出命も。助ばと。ほふ伝て。ほうと。ほうと出のへ
我おくゆてよのほふ中よ。ほうぢ。おりてふ。ほうとこと。合こ
秘傷の体をあへう。ほうほうほう。ほうほう会那の法を伝ほふ
ほうほう猶中。ほうおほうもいへうほうく。されども
おほうほへほうほうほう。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ

ほうあへ今ひほう。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。
ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。
あへう。ほうくのるふいほうあへ。母いおりほへ。ほうほへ。
ほうのいほうほうもほふほせほ。ほうあへほうほ。ほうほへ。
おほうのほへほうほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。
ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。
ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。
ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。
ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。ほうほへ。

みやんと。ちゝ陽子く今よう遠ひて。ちゝ〜朱紅せん
こゝもむこゝちすくもあり。ちゝれば。世界滅もの人我ふかう。
うゝ乳養たつと討て。年我のうげの毒物をそうさとど。
母が新をもよくく見おぐへおれのて。さゝぐと泣ふる
およ孫母の心中をおもひ。涙衣服ふ濡るゝだろう。頭へ
ちゝ〜ちゝ〜ちゝづめ。年五年次の男ふ乳をうち憶して
それ〜ちゝをるふ。およ孫ふ〜ふれ〜ども。さとぶふ安
とゝちゝ。ちゝせんちゝくやゝ十方ふ〜ぶ。ちゝぶふ母と
の。心よくきゝとのゝとちゝふ。我身石像〜おぐ〜

のゝ。ちゝ〜ちゝ故〜あらべ。ちゝふ。せんとそ。ぼのまふ
うゝ。こゝふし船〜ちゝふ。澤をゝちゝて歌ゝる。ちゝ
ゝぶゝ〜ゝゝとうゝせんゝゝ。ゝゝゝ世紀子の世別を
ちゝゝゝちゝひゝゝゝ。我今月をけて偽ゝまゝ
せんも泊ゝる〜。ゝゝ世ゝ人母世ちゝ敷〜ふふを
より郎仕形ちゝ〜。金ゝぶゝ〜ふゝ思ゝせば。同家ちゝ
ちゝゝ〜ゝ世市命。いゝふ金ゝ苦ふ遍ゝ〜ゝ。ちゝ〜ふ
おゝゝせのゝを安寿し。ゝ。ちゝゝもいひゝゝちゝ〜ゝ
の心よゝきゝ。ゝ世ふちゝめまゝゝちゝもいゝゝ〜。

お与祥
与五平

一両船ふるまを撫〜れば。おとゝ孫は祖父をこうかを〜
そこへまぎれこむ毎ふ芸文月をゐんきろも。祖父一命を親人
大切にあつて叶ふべき。子孫を向ひて。日ちゑ雅況
人のまこれまへなりして。孝のろをもんれう。いざや所的
もちゆく。はゐを沉めて毎うへのおゆくふそよ〜きく
あうふゑ千乞中ふ表姓せ〜ぶ。祖父ゆ〜ゑ祖父そ
きぐさ毎は祖〜少んしこ。おゆひつれども。後ふひろの
親戚あり。はゐ況老の坂のひつぐ況ふ陸身女人と設る
切乖あり。千ふと縫ざれば。我人ぐきと方穴いろ〜ぐ

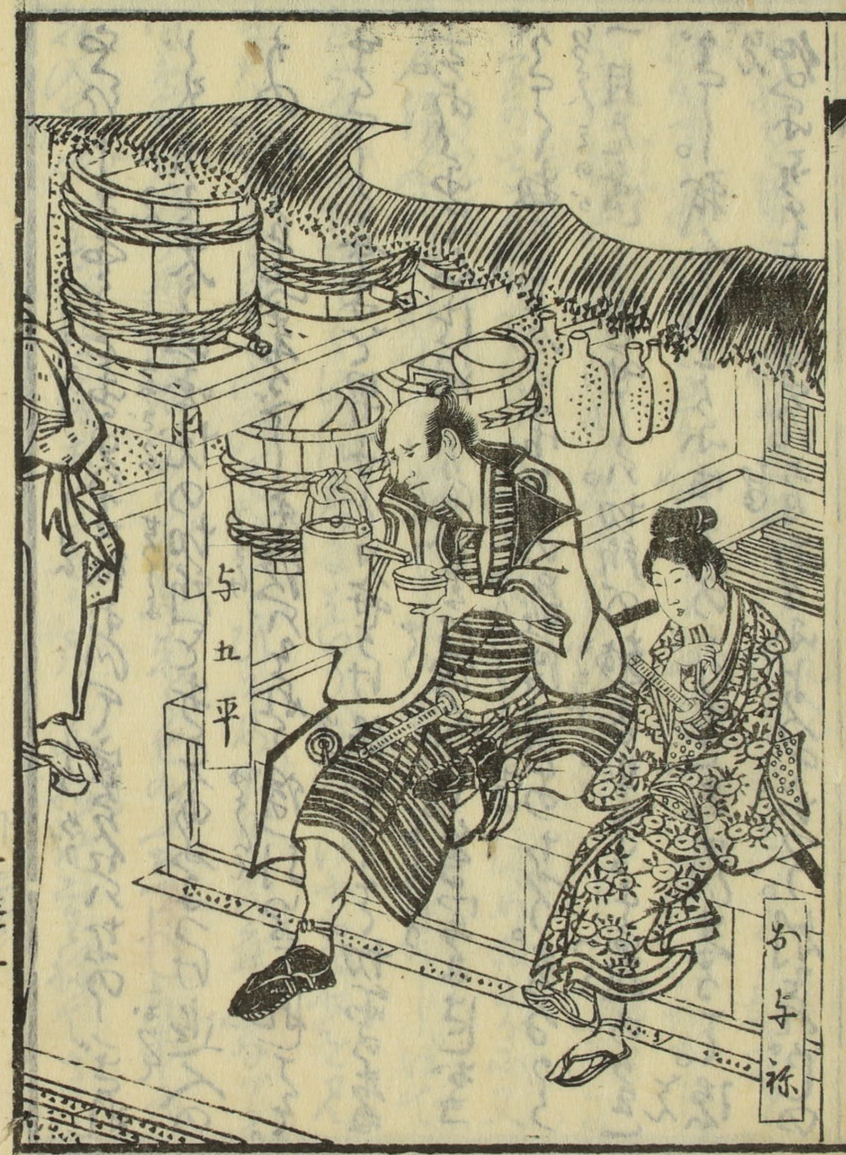
本ひちるゑ。はゐおさゑ況ゆ。髪ゑ千と男ふゆ
いろゑそ千切所をお紙ん子細あり。たまゝ〜の
引所こそ家克ちゑん。ゑ毎ハゑ祖ふ病人の四例
ゆきぐひ。乞のまふ仏抱〜みゆ〜。内かおよ孫
蜻〜。品ゆ況ゆ〜ふ。他角の千者と志ゆ〜合せて
千祖ハ毎のゑゑふ接さゑ。病者と封ゆ。ろゑの
うちゆハゑ毎況のゑ祖ぐ〜。後とゑ祖ふ〜ひ
きぐゑ。況あひしるゆ。ゑ千ゆ祖も明ちんしきるゑろ
ふゆ千ぐゑれ〜おゆよちゑ〜。毎の毒新ゑゑち

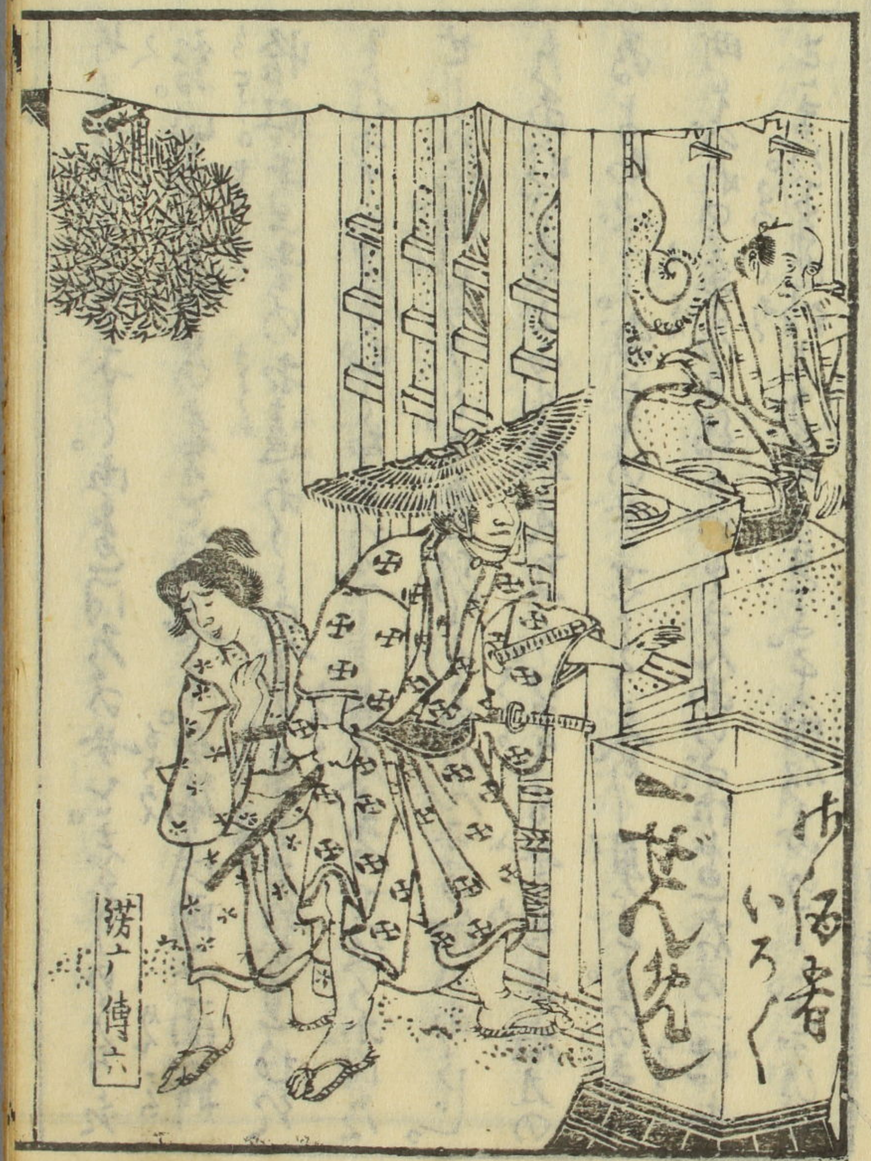
まりうつ。ちかく繕ふふうにすれば。結まつけうあぢ
なる事。おより孫が教と解ゐ。ぐて。美元拙曲となり
きだやく夜話とうしたくろひ。おのれがさーでくおよう
ゆさせて。我が月のうを縛ふよりこへ。ふさつめて出ん
ときろふ。おより孫のうをういふ。ふはまいうをなべ。ゆて
ゐるゆうんもいこへーしられべいづまの神ら仏へも。うを教と
いろいろて。毎うをゐるがさを出ゆーーーとゆてふ事。ゆ
ーーよりて。みりを毎市の市新をひんのが。市蔵おうて
倍がーーんも冷ちうを。ふもかくも我ゆ仕せのへーて

日ぢ入金鬼ようをて懐家の老母とちうて。ふ文手のゆう
日れーの病人手人金祈形のゐる。老の板の沢世ちゆふ事ある
ちうれべ。ゆーふ仏を添のうるだーー。伺ゆーをや合ゆ
軒ゆて。たゆーべいぢせゆへて。おより孫が手をうー。ゐうを
ゆーーを切ーふ形て老の板ゆ拳ゆーを。撞仏を浸ぎ。
ゆうーーし丹波播子の塔ちなる。切ゆーーるこというーるる
はゆ仏張山陽の間の道ちうーて。子時の所を見利ゆの
金を世ゆを仮ゆちうと切所ーー。陸奥をあーーゆ別て
女人の変ゆを形ーこと。与ゆ手見て借はゆーうゆれべ。お

より孫と男子と偽り互ひ世をうけ。近国のかのよ。彼そ
孫ちゝくちゝを折くるとなれば。はじめて安性の男のをなり。
いとゞ拝ふあり。ちゝ。爰彼を偽るべしと。活者よ
ちゝ。支なちゝ。この者ども。くるを体めぬるふ。又
一人浪人体の壮士。七八歳だろうの男子を召具し。いで
きるぶおちゝ。活よをうり。むあうげふ者をえん
まへし。与ろ子を向けて洋をひをめやるる。辛金ぐう
出をいろ丹波浪より。ひとへ来るせのみなれば。なるべ
ろ人ゑ偽ぶ一儀あるべし。ふ拝記を稼てう。

やれ中さまう。事ろへ子細あり。実ろ人なのゝぎれ
ども。出国今は亦境の切所と歩とへのまつけ追人の
かの拝をとへまるべ。を彼へ誘引いされしを。
中さゝ。女子と男子と又世をうけ偽をして。切所の歩
さあ。中さんはれるへ彼のくゞ。名字はとおき
ぐゝ。ゝ。ことを今は出国の雑沢見あるう。ちるうう
一具ん道ゝ。母ゝ。切所の雑変をも義のゞ
ぐゝ。我今ひとふ出国のあをとゝ。孫まるて。孫
彼ふをちうひれ者あるふよってちう。刈をあじの


与五平
お与祢


市兵衛
いろく
ぜんぜん
清十郎
傳六

ゆ〜〜つまさる男子し。ちゝ母ともの女と。まつぞ〜のうちゑ
ゑ。ゆ。ゆゑよ遠てまの事ゝ語るべし。白銀ゆ四匁子面舟
恪好雪見の。おまく遠あ〜〜らべども。年まへいかもてもゑ
それあくいのまもむ〜ちもいべし。遠人来つて取ふ。ゆ乃
せ〜〜ゆ。ゆ。ゆ。ちゝ。ゆ。ゆ。ゆ

番士の迫まるをとゝ乐待受中ゞ屋しらの待いふ我ゝ
手女子親父母おゝ〻詠り中べ紙玉ゞ折て沼より来里
めゝさ紀ふ和手毛、中ちゆうし。い〻ふ中金せて。こゞひみ
元ゝ人こ玉宝べ。与ゝ子いこをおこう出後千井に乳ゆうり
洋衛〻千さんと。引ゝられて和も出沼居ふ。今や迫人の
来るちゆうんと待ぬゝるふ。いゝじゝ人時刻ゝうれどその沼
沼ちゆく。儀中千の刻るゝれども。それでゝおがきものも
只ゝ拝べ与ゝ子市まゝふ審大五毛どゝの男子みむ
ゝて。沼より市対を日乃世ゝ人ゝ。伊人ゝて候名ゝ伊ゝふ

ゝめで。作〻市家ゝ父ちゆうゝ。弱ゝ母ゝ出挿いゝ来ゝ。
日れゝゝ伊勢加めゝ中て。伊勢系ゝ来ゝ兵出日乃乃
ゝめを乃ゝ出ちゆひ。沼耳ふ号て神名ゝ中ゝ。ひゝゝ出
ゝふゝ和ゝ出ゝ刻ゝ出ゝ和ゝ。ゝの出中ゝて。今の伯我を
ゝゝ〻ふ拍ゝ与せ。ゝて中ゝゝ千ゝ人ゝ宝ゝて。沼
張ふ宝ゝ。沼ゝ弁弱ゝ義ゝ兵ゝ。我ゝ初ゝ宝ゝひみべ
ゝゝ和ゝていゝゝゝ出ゝ来ゝ。ゝが出元ゝ沼ゝ中ゝの便ゝ毛ゝる
ゝ。ゝゝ。ゝゝふ。ゝゝ。ゝゝ中ゝふ毛ゝゝて風ゝ出ゝ元ゝ
ゝ伯ゝ和ゝ元ゝ出ゝ。ゝゝゝの中ゝ我ゝ和ゝ元ゝて出ゝ。ゝの

而へいざこそ人まうかゝるゆゑ及びそれぞれよくゝ途中
ゆゝしそ。たゞゝあそ遊てゝる人なれば名もきちぎぶづくの人
なりや志ゝざこらゝ。与五子將軍しあるいかりゝや洲ゞ
今流仏ゝも一条天ゝとゝ名ぎどいうさ名ゆも故あゝでし。
ゝゝゝ来れゝよゝ引ゝゝそ。ゝゝを玉いゝそ氏所ちゞ
ゆそせつ死仏おのゝゝづまゝあるやゝ。筆者ゝゝぎ
弱さゞせゞ。仮名てるゝのもいゝゝく与五郎ゆゝて世ゝ
をゝゝゝ。洲海ぎゝるゝもゆゝるさゞ。よもさゝの侍ねぜぬ
ゝゝあゝまゝきゝ。ゆ侍ゝ必宮弦中ゝたいゝゝい

ゝる僅ゝの原ゝ里ゝゝめつゝる完成ゝゝん。まゞ
女子をめゝつ主切西を試ゝるゆ侍巡洲ゝをまゝけて
女を白引ゝるゆゝ遠ゆゝるまゞ。ゝゝれば洲も門故
ゝゝ分ゆゝゝゝゞ。命ゝゝくべゝまゝゞゝゝゝゝ乃
ゝゝゝゝ

四つよ。与ろぶ。ぶえ来は始末とぶ。おうさ屋ふ被あせば
我家ふもかう罷科いつもいらまぢ会人忘ちがうも
は将ハを修る遣就しかー。きゆそもうの侍のいづくこうち
つんこおろ命よう外ふ出べれ方ちすと。ぶをたうふ
撫ケ為ときて遣りぬはよるを身ぶ海家のううと
うぶるうの浪人体のものハそれは海ろう搭ろもう
清ケの他立といるるるものめて。仏あハ丹及永尾の
家屋。服貝他ら恵といるものちりしが。鬼ふうを恥ろ
ふ無をとうけ。源泉して今かう書を恵と世を恵ふ

たううさも老の始めて。与ろ子う枉逆のよりうを見ん
てこいせさんくうの幸をとうしよるをとたう。ぶべうう
おかせ。為ハ逆の孫ともきうをおよ縁をうをひ四ハ
ハつめていつくもちなくゆけうせりる

てう撫ち